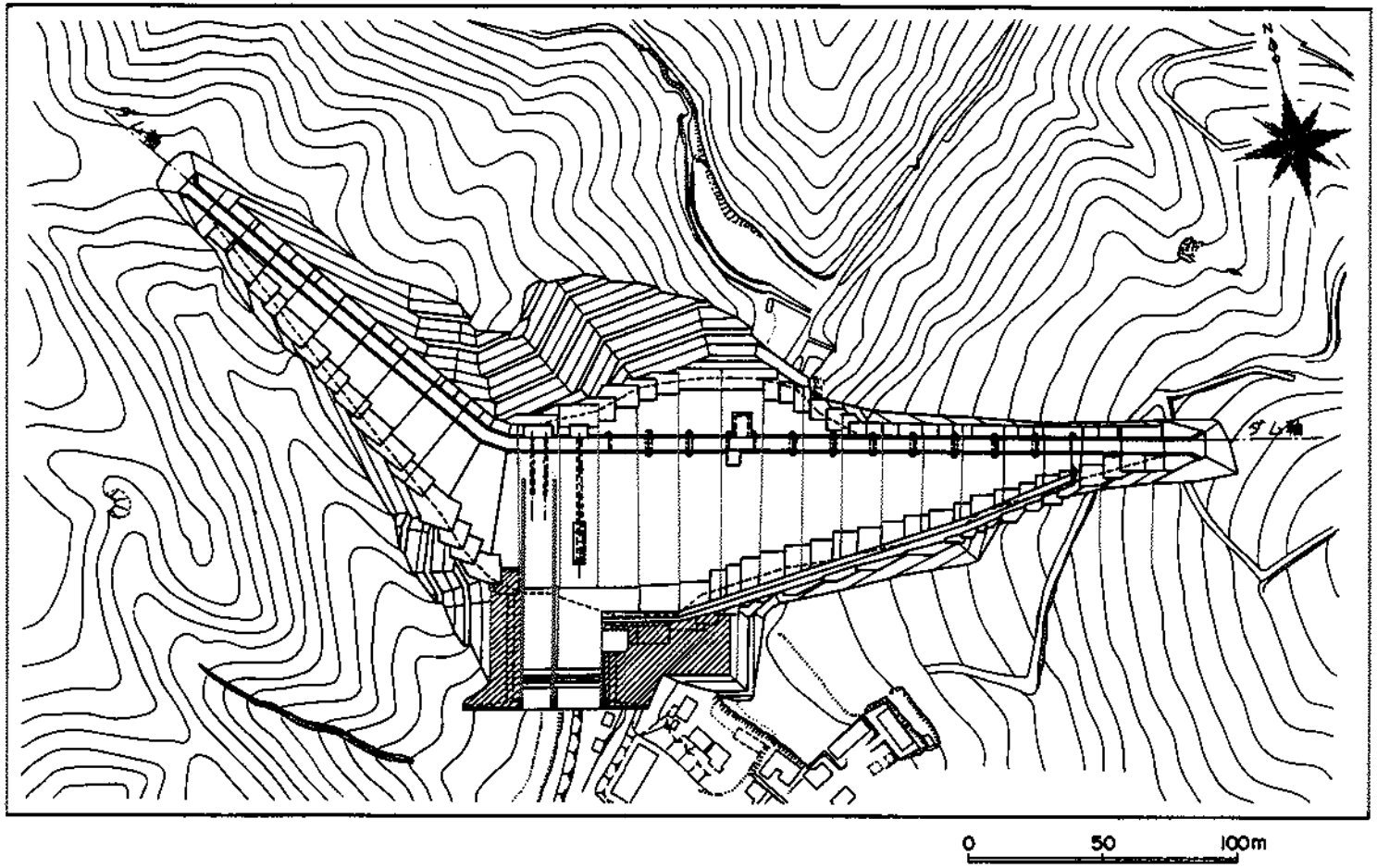
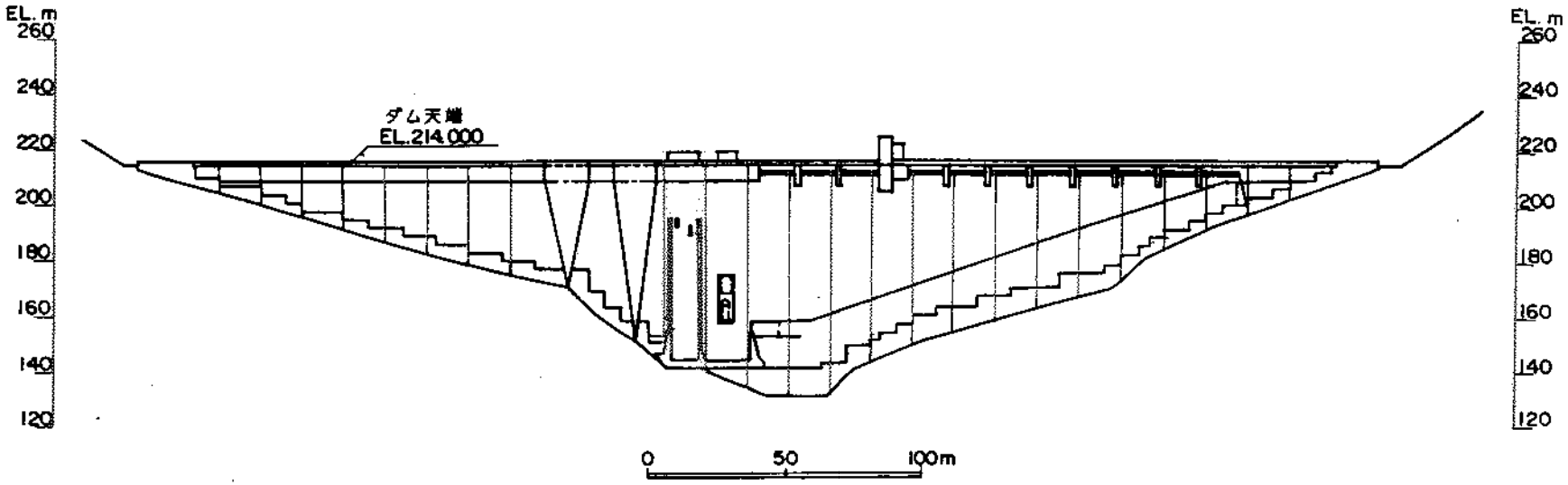
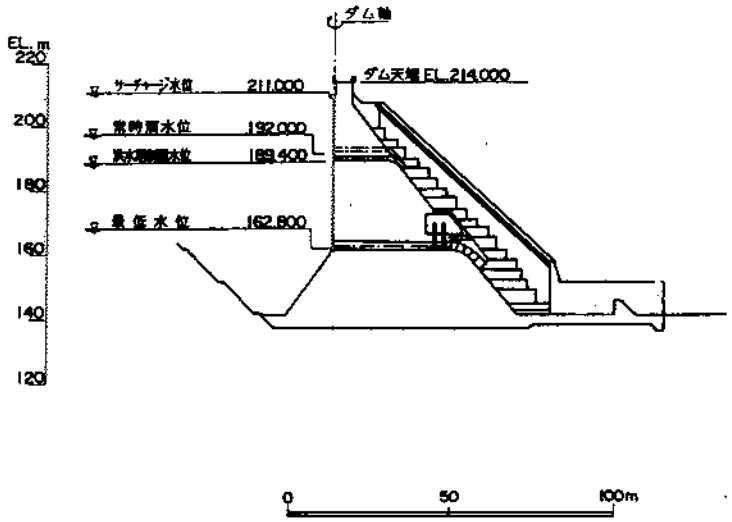


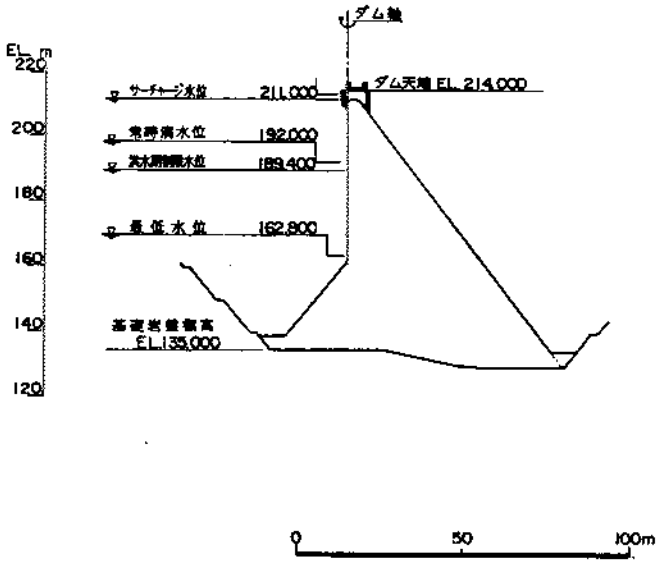

図 1-2-2 ダ ム の 平 面 図




ダ ム 下 流 面 図




非越流部標準断面図




越流部標準断面図

図 1-2-3　ダ ム の 断 面 図

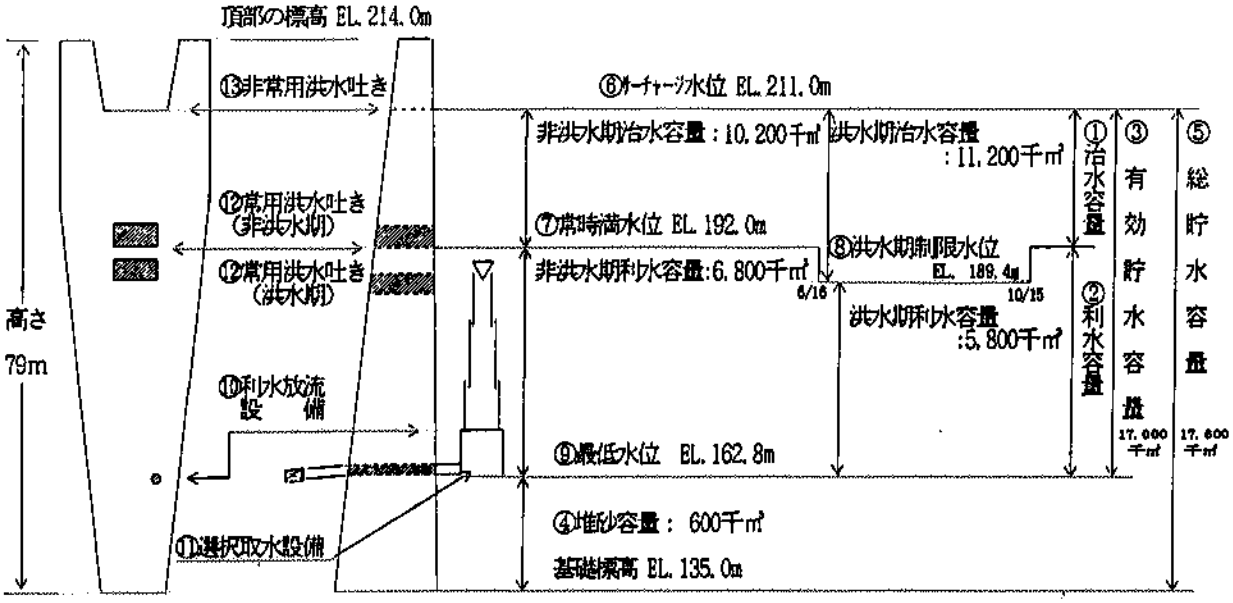
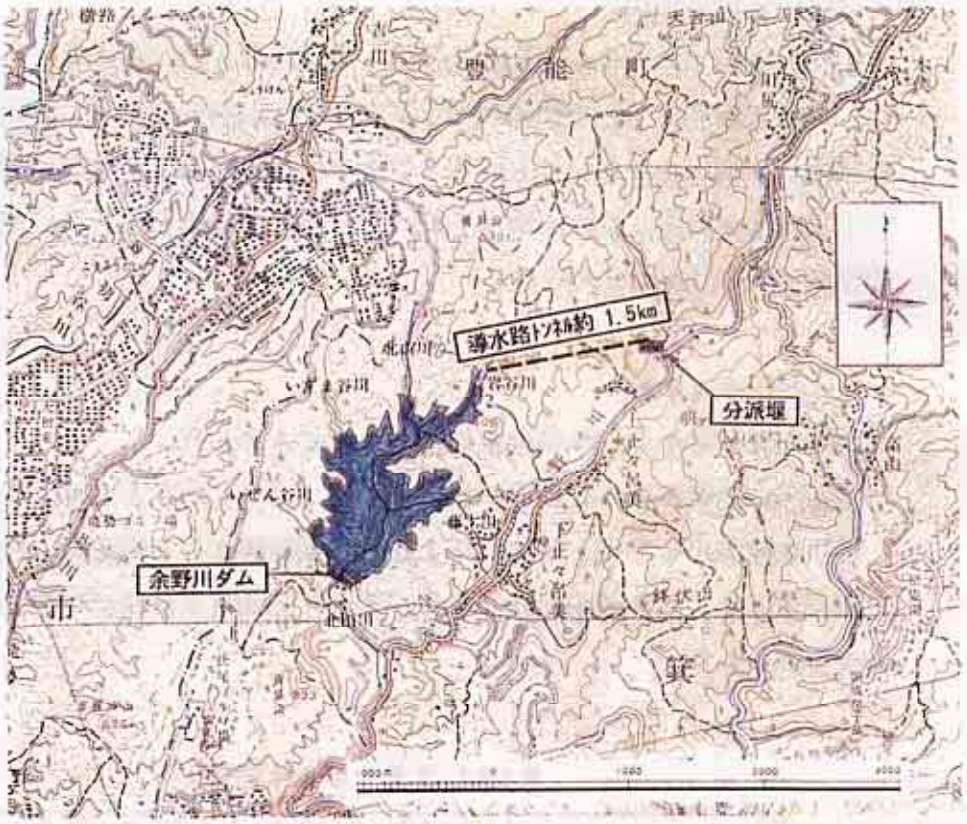


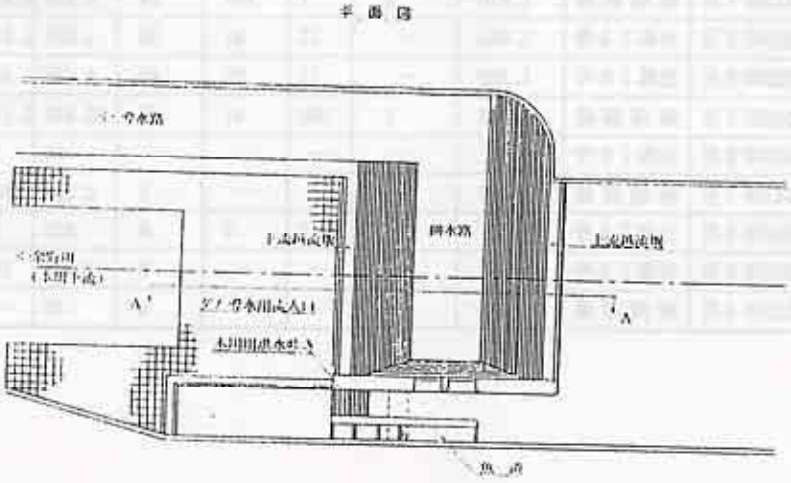

図 1-2-4　貯水池容量配分図

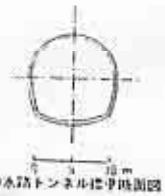
## 用語説明

① 治水容量：洪水調節のために必要な容量（洪水時のために普段は空けておく）
② 利水容量：水道用水、流水の正常な機能の維持に用いる容量
（川の水が多い時に貯めておいた水）
③ 有効貯水容量：治水容量と利水容量の和（利用できる容量）
④ 堆砂容量：土砂等が堆積するのを見込み確保している容量（利用できない容量）
⑤ 総貯水容量：有効容量と堆砂容量の和（ダムに貯めることが出来る総量）
⑥ サーチャージ水位：洪水調節時に一時的に上昇する計画上の最高水位
⑦ 常時満水位：利水のため維持する水位（洪水時以外の普段の最高水位）
⑧ 洪水期制限水位：梅雨や台風などによって大雨が集中する洪水期（6月16日から10月15日）に備えてあらかじめ下げておく水位。
⑨ 最低水位：ダムに貯まった水の利用ができる最低の水位
⑩ 利水放流設備：主に利水のための放流に利用する設備
⑪ 選択取水設備：任意の貯水池水深を選び取水できる設備
⑫ 常用洪水吐き：洪水を調節するための放流設備
⑬ 非常用洪水吐き：計画規模以上の大洪水を放流するための設備




位　置　図

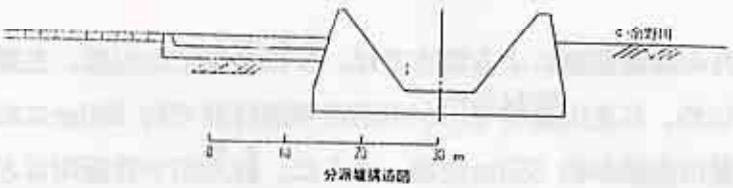


導水路トンネル標準断面図

側面図

(A－A)



分派堰構造図

図 1-2-5　導水施設の位置及び構造

3. 治水上の必要性

1) 猪名川流域の現状

昭和30年代に始まる高度経済成長は、大都市に人口が集中し、市街地を拡大してきました。猪名川流域でも、阪神間のベッドタウン化が急速に進み、昭和40年以降は流域上流部（箕面～長尾山地以北）にも団地・ゴルフ場などの開発が及び、樹木が減ったりアスファルトで地面をおおうため、雨水を貯め込む能力が低下しました。その結果、猪名川の治水安全度は低い状況にあります。

2) 主要な洪水と被害

猪名川では昔から数々の洪水にみまわれてきました。

猪名川の主要な洪水と被害の状況は、表 1-3-1に示すとおりです。

近年の被害としては、昭和42年７月の梅雨前線による降雨で、浸水家屋が９万戸にのぼる被害を受け、その後昭和47年７月、９月、同58年９月及び平成元年９月と大きな被害を被ってきました。

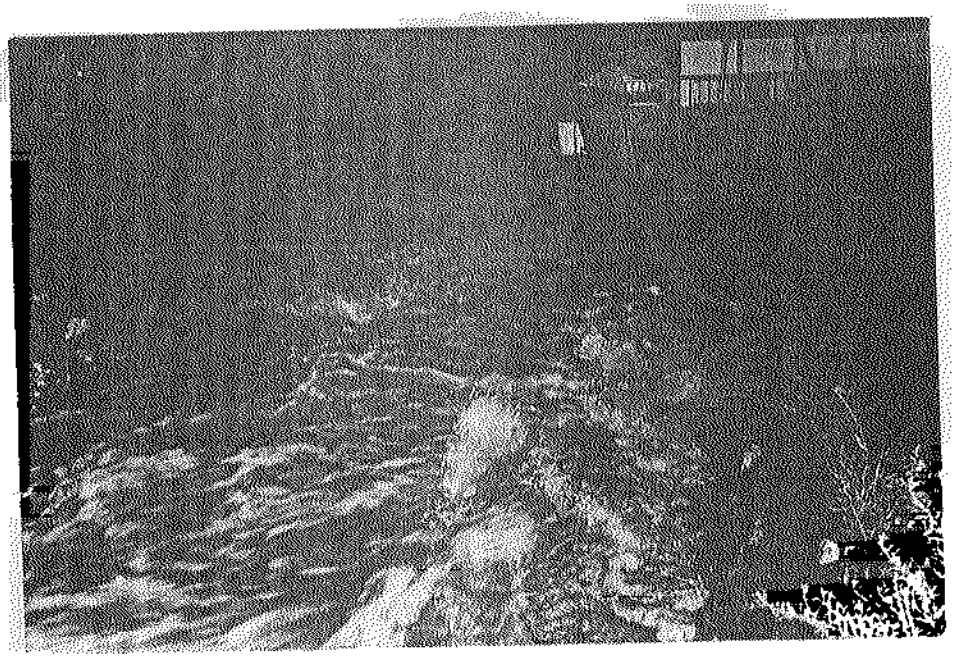
表 1-3-1 主要な洪水と被害

| 洪水名 | 起因 | 小戸地点の流量（m³/s） | 人的被害 | | 建物被害 | | | 田畑冠水 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 死者（行方不明者含む）（人） | 負傷者（人） | 全壊・流出（戸） | 半壊（戸） | 浸水（戸） | （ha） |
| 昭和13年７月 | 梅雨前線 | 1,870 | 8 | 1 | 166 | 94 | 8,408 | 1,976 |
| 昭和28年９月 | 台風１３号 | 1,645 | — | 12 | 41 | 30 | 4,990 | 1,220 |
| 昭和35年８月 | 台風１６号 | 1,360 | — | 11 | 25 | 49 | 4,426 | 454 |
| 昭和42年７月 | 梅雨前線 | 1,363 | 2 | 100 | 41 | 57 | 93,436 | 2,170 |
| 昭和43年８月 | 台風１０号 | 1,091 | — | — | — | — | 105 | 32 |
| 昭和47年７月 | 梅雨前線 | 1,190 | — | — | — | 2 | 2,324 | 885 |
| 昭和47年９月 | 台風２０号 | 1,317 | — | 1 | 3 | 6 | 633 | 47 |
| 昭和58年９月 | 台風１０号 | 1,362 | — | — | — | 8 | 3,227 | 106 |
| 平成元年９月 | 秋雨前線 | 835 | — | — | — | 4 | 46 | — |

また、各洪水における被害状況は下記のとおりです。

昭和42年７月の梅雨前線による洪水では、多田盆地（ただぼんち）での氾濫、主要地方道川西篠山線（ささやません）での冠水をはじめ、右支川最明寺川（さいみょうじがわ）が川西市寺畑付近で約 300mにわたり決壊、豊中市では左支川千里川左岸が約 350m決壊、さらに、駄六（だろく）川や箕面川なども氾濫しました。このため、民家の流失や橋梁の破損・流失、浸水被害などが続出し、多くの住民が避難しました。尼崎市では、猪名川の増水と満潮時とが重なったことから支川が溢れ、市内の半数近い世帯が浸水被害を受けました。

箕面川沿岸（池田市）

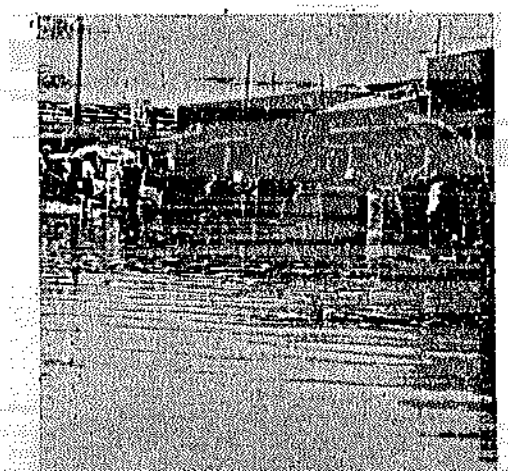


箕面川沿岸（池田市）

出水の状況（昭和42年７月）

・　昭和47年７月の梅雨前線による洪水では、多田盆地の氾濫のほか、伊丹、川西、池田、能勢地方での土砂崩れによる民家の半壊、床下浸水、主要地方道川西篠山線などの道路の冠水、能勢電鉄が一時不通になるなどの被害が相次ぎ、多数の住民が避難しました。

また、池田市五月ケ丘では長さ 100m、幅50mにわたり土砂崩れが起こり民家が半壊したのをはじめ、同市木部、畑地区でも土砂崩れが発生し付近の住民が避難しました。



大　谷　池　（池田市）

大阪大学交差点付近のコーモリ池の増水

出水の状況（昭和47年７月）

・　昭和47年９月の台風20号による洪水では、多田盆地が氾濫したほか川西市東多田滝ノ上の民家が流失し、各市町で床上・床下浸水、道路の冠水などの被害が発生しました。

・　昭和58年９月の台風10号による洪水では、多田盆地の氾濫のほか、池田市内を流れる箕面川も増水し、箕面川橋の橋脚が沈下して傾いたため通行止めとなったのをはじめ、各地で河川の増水による床上・床下浸水などのため多数の住民が避難しました。川西市では、国道 173号や主要地方道川西篠山線が冠水や土砂崩れで不通となったほか、能勢電鉄も絹延橋（きぬのべばし）から多田駅間が冠水し一時不通となりました。

（川西市）

（川西市）

出水の状況（昭和58年９月）